

原点

第 19 期生 丸山 紗里奈

私はよく目の前の事にしか集中できなくなり、手段が目的になってしまうことが良くあるが、そんな時は自分が何故このような活動をしているか、その原点を思い出している。ここでは私が小野ゼミを志望した原点を書きたいと思う。本当は、ゼミの思い出を振り返るのが普通であろう。しかし、私が小野ゼミを続けていけたのは、この原点の思いが強かったからであるため、あえてここに書き記しておきたい。

小野ゼミの存在を知ったのは、高校 1 年生の時である。当時私は、全く勉学に興味がなく、キラキラした大学生活に憧れてもいなかったのも、大学が魅力的なものとは思えず、周囲に合わせて何となく進学しようとしか考えていなかった。そんな当時の私は、あまり有名な大学のオープンキャンパスを回っていた。勿論慶應もその 1 つだった。説明会で話を聞いてもあまりピンとこず、少しキャンパスを見て回ってから帰ろうとした時、オープンゼミの参加を呼び掛けている大学生を見かけた。ゼミは 3 年生から入るもので、まだ高校生には早すぎるとは思ったが、何となく気になりオープンゼミに参加した。この判断をした当時の自分を全力で褒めたい。これが私の人生のターニングポイントだった。

オープンゼミではミスタードーナツのケーススタディを行っていた。私にとっては全てが新鮮に思えた。といっても、詳細な内容はあまり覚えていない。ただ、自分の 5 歳ほどしか変わらない学生が、自分で情報を収集し有名企業の戦略を批評していたことに衝撃を受け、何より、ケースの解説とゼミの紹介をする学生がとても生き生きとしていたことが強烈に自分に刺さったことは確かである。ほどほどに手を抜くタイプの自分が、初めて人の熱意ある姿に惹かれたのだ。

このオープンゼミは私の人生を大きく変えた。初めて大学に興味を持ち、その勢いで文系を選択し、さらに慶應の商学部を志望することに決めた。入学して 1 年は遊び惚けてしまったが、2 年生の時新型コロナウイルスの流行で外部の活動が出来なくなり、ようやく再び勉学に興味を持ち始めた。3 年生からはゼミに力を入れようと決意しゼミを探していた時に、自分の大学と学部を決めるきっかけになったゼミの存在を思い出した。当時使用したワークシートを引っ張り出し、ようやく小野ゼミという名前を知った。

私は、もともと興味がない物には熱意もわかないが、思い込みが激しく、一度興味を持ったものに対してはずっと追い続ける習性がある。憧れブーストがある小野ゼミであれば、自分でもなんとか続けていけるであろう、そして自分の人生を変えた元凶にその責任を取ってもらおうという、質の悪い当たり屋のような思いで志望を決意した。今振り返ってみても酷い志望動機である。でも、この思いがあったからこそ、小野ゼミへの熱意が欠けることもなければ、変にゼミ活動に夢見ることもなかったのである。

といっても、勿論気力だけではゼミ活動を続けていけるわけもなく、圧倒的に能力不足で、何も役立てていないと悩むことは幾度となくあった。それでも、こうしてゼミを続けていけたのは支えてくれた方々のおかげである。小野先生、大学院生の方々、18 期の先輩方、20 期生、そして同期には感謝の思いしかない。こんなにも充実したゼミ生活を送れて本当に幸せであった。本当にありがとう。